

献 辞

金山正信先生の還暦をお祝いする同志社法学記念論文集をここに刊行することができました。心からのお慶びをこめて先生に献呈させていただきたいと存じます。

金山先生は第二次世界大戦後の同志社大学法学部再生の初期から、法学部の、そして民法陣の支柱の一人として、研究に教育に全身の静かな情熱とたゆむことのない努力を傾けてこられました。また法学部長、図書館長などを歴任され、学部と大学の充実と発展に心をつくしてこられました。

金山先生のご研究は民法の全域における厳密、精緻な解釈法学を中心に、アメリカ植民地時代の宗教と法思想にまでわたる、まことに幅広いものであります。先生の数多くの著作、論文はいずれも、広い視野をもって対象を鋭く深く刻んだ労作であります。妥協のない冷徹な論理の鑿のあとには、先生の人間への暖かい理解とつきない関心がこめられているのを見取ります。先生の民法ゼミナールは、法学部の「個性と伝統」あるゼミの一つとして、多くのすぐれた学生を集め、そのなかからことに多くの法曹が育ってきたことで知られています。先生のきびしいなかに滋味あふれる人柄に触れた教え子は、卒業後、おのがじしの道を進みながら、毎年、先生を囲む「おのが会」に集うことを楽しみにしているのであります。

金山先生に教えを受けた者の一人として、この同志社法学記念論文集に献辞を記させていただけることは、私の望

外の幸せであります。先生につながる本論文の執筆者、同志社法学会会員一同とともに、金山先生のこれからなお一層のご健勝と、ご研究の進展とを心からお祈り致します。

一九八〇年三月

藤 倉 皓 一 郎
法 学 部 長